

第1章 現況と課題の整理

1.1 奈良市の現況と課題

1.1.1 計画改定における主たる課題

当初平成14年に策定された「奈良市都市計画マスタープラン」は、平成27年7月に改訂されてから約10年が経過しようとしており、現在までの都市施設の整備状況及び土地利用状況の変化等に対応するとともに、上位計画である奈良市第5次総合計画や関連する計画に即した内容に改定する必要性が生じてきました。また、少子高齢化の進展及び将来的な人口減少社会の到来、市内の土地利用状況の変化を始めとした本市を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、改めて奈良市の目指すべき将来像を示す必要があります。

1.1.2 奈良市の個性

- ・平城京の時代から連綿と受け継がれてきた歴史と伝統を色濃く残し、三方を囲む豊かな自然と相まって、本市の魅力となり、日本の文化の都として、県内における魅力（歴史・文化等）の中心拠点として広域的な役割を担っています。
- ・世界遺産に登録された東大寺や興福寺、平城宮跡等数多くの歴史・文化遺産を有するとともに、宗教的・精神的な観点から奈良市民としての誇りと心を育み、観光都市としての魅力を形成しています。
- ・東部の春日山一帯から大和高原に連なる豊かな自然、西部地域に残った丘陵地の自然、南部地域に広がる田園風景は、本市市街地の良好な背景景観となり、都市に潤いをもたらしています。
- ・古の自然を今に伝える春日山原始林、都心部にありながら500haにも及ぶ広大な敷地を有する名勝奈良公園、春日大社の神鹿等は、都市に自然の雄大さや安らぎをもたらすとともに、歴史・文化遺産と融合し、暮らしと共生する世界に類をみない都市環境を創出しています。
- ・平城京左京三条二坊宮跡庭園や平城宮東院庭園等、水辺と興じた遺構が発見される一方で、都市としては、常に水不足に悩まされ、多くのため池を築き、水辺を求めてきた歴史があります。

1.1.3 奈良市の沿革

- ・ナラの地名については、『日本書紀』の崇神天皇の条に「大彦命（おおひこのみこと）と彦国葦（ひこくにぶく）の軍が武埴安彦（たけはにやすひこ）の軍を迎え撃つため陣を布いたとき、兵士たちが草木を踏みならしたので、その山を那羅山といった」という伝説がのせられています。また、一般に古代人の住居に適したなだらかな丘陵地を意味する平地（なるじ）、平（なら）等のナラとする説や、渡来人の居住地を古代の朝鮮で国を意味する言葉からナラと名付けたことから、ナラの地名がおこったとする説もあります。

ナラには、那羅・奈良・奈羅・檜・平城・乃楽・寧楽等の漢字があてられ、奈良時代の官用には主に「平城」と記述され、平安時代以降は「奈良」が広く用いられるようになりました。

奈良を歴史の表舞台に押し出したのは平城京の造営でした。和銅3年（710年）都が藤原京からこの地に遷されてから70余年の間、奈良は古代日本の首都として栄え、天平文化の華を咲かせました。

都が奈良から遷されると政治都市であった平城京は荒廃しましたが、平城京に建立された諸大寺はそのまま奈良に残され、奈良は社寺の都として生まれ変わり、政治の中心である平安京に対して、南都と呼ばれるようになりました。

東大寺や興福寺が発展するにつれ、寺の仕事に携わる者等多くの人が集まり、寺のまわりに住む人が増え「まち」が形づくられ、境内地の外にできた「まち」は郷（ごう）と呼ばれ、商工業が盛んになるにつれて新しい郷が生まれました。治承 4 年（1180 年）の平氏による東大寺、興福寺の焼討ちにより、諸郷も大きな被害を受けましたが、両寺院の再建が進むとともに郷も復興し、13 世紀には、郷の組織も整うようになり、今日の奈良の基がほぼ形づくられました。



市街地から若草山を望む

・室町時代から奈良の名産として、酒、墨、刀、甲冑、団扇等が知られていましたが、江戸時代になってめざましい発展をとげたのは麻織物を白く晒あげた奈良晒で、江戸時代初期の奈良は奈良晒をはじめとする産業の町として活気を呈しました。その後、戦国時代の兵火で焼け落ちた大仏が復興された江戸時代中頃から奈良見物に訪れる人が多くなり、奈良は次第に観光都市としての性格を強めていきます。

明治維新の後、明治 4 年（1871 年）の廃藩置県により奈良県が誕生しますが、一時期堺県や大阪府に合併されたりしたため近代都市化が立ち遅れてしまいました。

明治 20 年（1887 年）奈良県が再設置され、奈良に県庁が置かれました。明治 22 年（1889

年)には町制がしかれ、明治31年(1898年)2月1日面積23.44km²人口29,986人で市制が施行されると、近代都市として発展する素地や施設が徐々に整い、奈良市は政治、文化、交通の中心となる県都として発展しました。

- ・奈良は幸いにも第二次世界大戦の大きな戦禍を免れ、貴重な自然や文化財を残すことができました。昭和25年(1950年)「奈良国際文化観光都市建設法」が住民投票の結果を受けて成立し、奈良の持つ文化的、観光的価値を将来に生かした近代都市づくりを進めていくことになりました。

平成10年(1998年)2月に奈良市は市制100周年を迎え、同年12月には「古都奈良の文化財」として東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡の八資産群がユネスコの世界遺産リストに登録され、世界遺産を生かしたまちづくりを進めています。

平成14年(2002年)4月には、全国で29番目の中核市に移行し、保健福祉や都市計画等の様々な分野で多くの権限が移譲され、これまで以上に主体的なまちづくりに取り組むことができるようになりました。

平成17年(2005年)4月には、月ヶ瀬村、都祁村を編入合併し、本市の大きな魅力である豊かな自然環境や文化遺産を保全するとともに、市民に愛される奈良のまちづくりを推進しています。



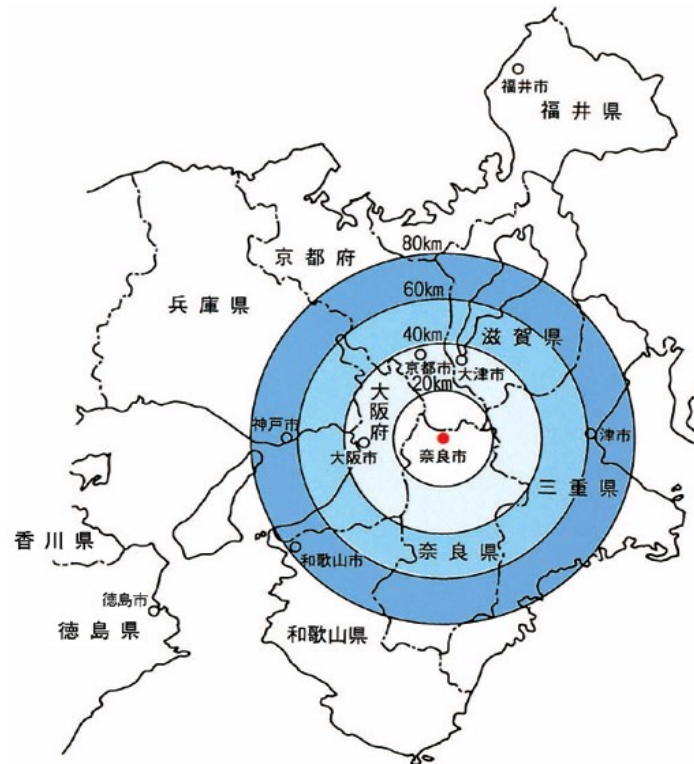
和州奈良之図 天保15年(1844年)

1.1.4 奈良市の位置及び地勢

・本市は、奈良県の北端に位置し、西は生駒市、南は大和郡山市・天理市・桜井市、東は宇陀市・山辺郡山添村・三重県伊賀市、北は京都府木津川市に接しています。市域は、東西 33.51 km、南北 22.22 km、周囲の長さは 162.25 kmに達し、面積は 276.94 km²で奈良県の総面積のほぼ 7.5%を占めています。東西に長い形をしている本市は、春日山原始林を境に地勢が異なります。

・春日山原始林以東の地区は、標高 200～600m のなだらかな山地状の地形が広がる大和高原の北部に位置し、布目川、白砂川、名張川等が山あいを北に向かって流下し、木津川に合流します。南端には、大和高原第一の高山である貝ヶ平山（標高 822m）をはじめ香醉山（標高 796m）、額井岳（標高 812.6m）等が笠置山地に連なっています。

春日山原始林以西の地区は、奈良盆地（大和平野）の北端に位置する平坦部で、佐保川、秋篠川、岩井川等が盆地の南部に向かって流下し、大和川に合流します。地区西部には西ノ京丘陵と矢田丘陵の一部が延び、両丘陵の間を富雄川が南流し、大和川に合流します。地区北部は、平城山丘陵で京都府南端の丘陵地に接しています。



市の面積 276.94km ²		
市庁舎の位置 北緯 34° 40′ 53″		
東経 135° 48′ 27″		
方 位	地 名	緯 度 ・ 経 度
極 東	月ヶ瀬石打	東経 136° 04′
極 西	二名六丁目	東経 135° 42′
極 南	都祁吐山町	北緯 34° 33′
極 北	広岡町	北緯 34° 45′

1.1.5 奈良市の自然

・自然環境

・本市は、大和青垣国定公園、室生赤目青山国定公園、県立矢田自然公園、県立月ヶ瀬神野山自然公園等美しい自然に恵まれています。

名勝に指定されている月瀬梅林や奈良公園、特別天然記念物に指定され世界遺産でもある春日山原始林、天然記念物に指定されている吐山スズラン群落をはじめとする緑の環境にも恵まれた都市です。

・世界遺産をはじめ歴史的文化遺産の多くは自然と一体となって形成されているとともに、市街地を囲む豊かな自然環境は本市の大きな魅力であり、奈良の歴史的・自然的景観の基礎となっています。



吐山スズラン群落



奈良公園（飛火野）



春日山原始林



月瀬梅林

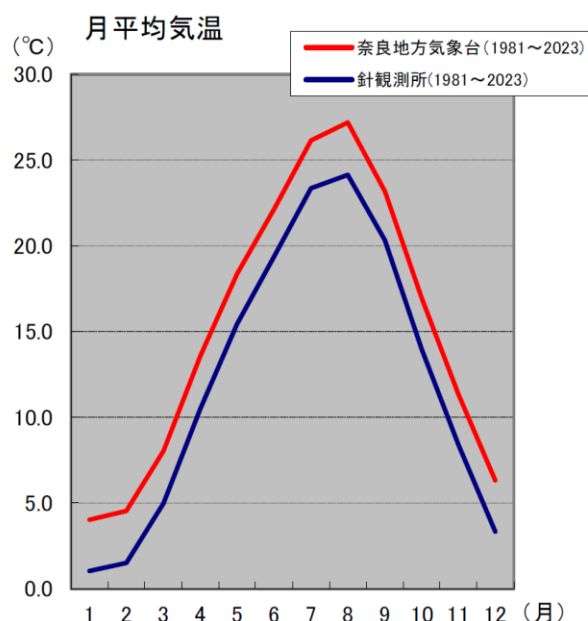
・気 象

本市は、山岳によって海岸から隔てられているため内陸性気候を現しますが、地形その他の関係によって地域的に差異があり、特に奈良盆地地区と大和高原地区との相違が著しいです。

■気 温

本市の月平均気温分布をみると、夏は高温で冬は低温と年較差は大きく、大和高原地区は奈良盆地地区に比べ年間を通して2～3℃低くなっています。

最低気温は、奈良地方気象台では昭和 52 年(1977 年)2 月 16 日に－7.8℃、針観測所では昭和 59 年(1984 年)2 月 20 日に－12.2℃、最高気温は、平成 6 年(1994 年)8 月 8 日に奈良地方気象台で 39.3℃、令和 2 年(2020 年)8 月 10 日に針観測所で 36.0℃を記録しています。

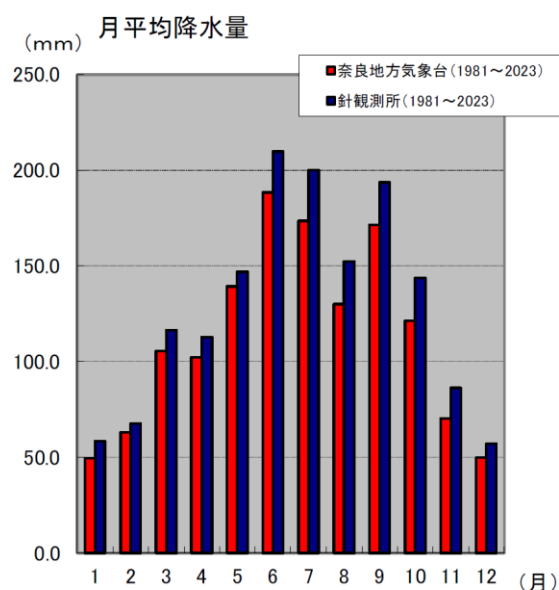


■降水量

本市の年平均降水量は約 1,300 mmであり多いとは言えないため、水田灌漑用水の不足を補う溜池が多数つくられています。

月平均降水量は 6・7 月の梅雨期と 9 月が多く、大和高原地区は奈良盆地地区に比べ年間を通して降水量が多くなっています。

最大日降水量は、奈良地方気象台では平成 29 年(2017 年)10 月 22 日に 196.5 mm、針観測所では昭和 57 年(1982 年)8 月 1 日に 220 mmを記録しています。



■風

本市における風の強さは、真冬から春先にかけての期間が最も強く、その他の季節は比較的穏やかです。

最大瞬間風速は、奈良地方気象台で昭和 54 年(1979 年)9 月 30 日に 47.2m/s(風向：南)を記録しています。

1.1.6 古都奈良の文化財

・奈良に都が開かれたのは710年のことです。

それから1300年近くの時が流れた1998年の12月、京都で開かれた第22回世界遺産委員会で、「古都奈良の文化財」の世界遺産リストへの登録が決定しました。

「古都奈良の文化財」は、次のような8つの資産で構成されています。

国宝建造物があり、敷地が史跡に指定されているもの

・東大寺 ・興福寺 ・春日大社 ・元興寺 ・薬師寺 ・唐招提寺

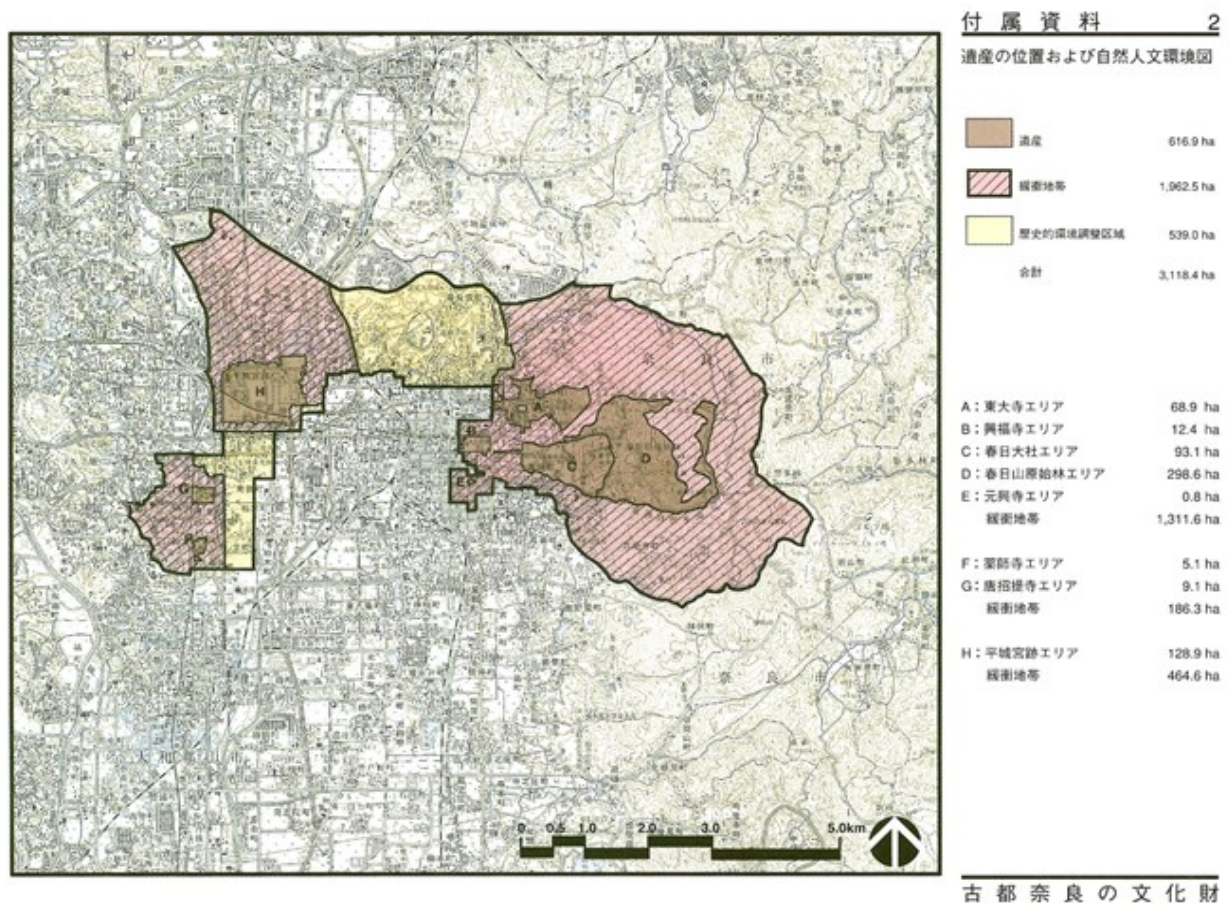
特別史跡・特別天然記念物に指定されているもの

・平城宮跡 ・春日山原始林

・世界遺産リストへの登録にあたっては、各資産が個別に評価されたものではありません。

8遺産全体で物語っている奈良の歴史や文化の特質が評価されました。「古都奈良の文化財」という名称で、全体がひとつの文化遺産として登録されていることが、それをよく表しています。

8つの資産は奈良のまち全体の代表なのです。

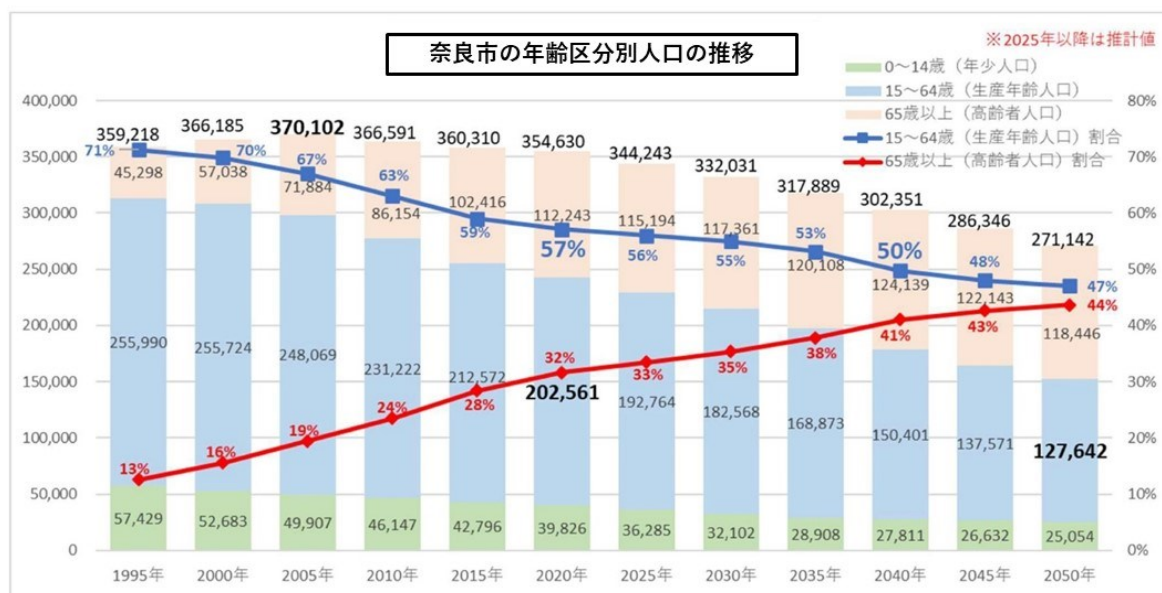


出典：古都奈良の文化財

1.1.7 奈良市の現況

(1) 奈良市の年齢区分別人口の推移

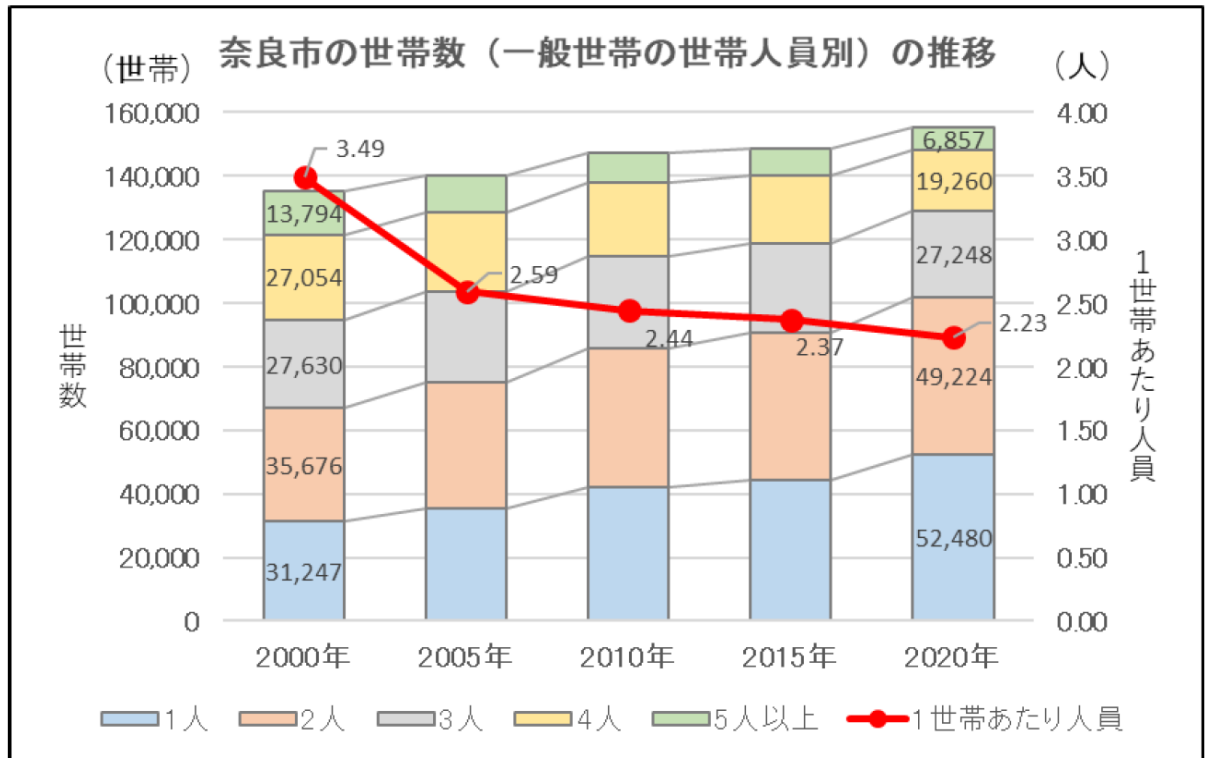
本市の総人口は、2005 年（平成 17 年）を境に減少傾向に転じ、2045 年（令和 27 年）には 30 万人を割り込むことが見込まれています。また、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）の減少に伴い、高齢化率（65 歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）が上昇を続け、2040 年（令和 22 年）には 41%に到達する見込みです。



出典：2020年（令和2年）までは総務省「国勢調査」
2025年（令和7年）以降は国立社会保障
人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(2) 世帯数及び世帯人員の推移

本市の総人口は減少傾向にあるものの、世帯数は増加傾向にあります。3人以上の世帯は減少を続けている一方で、世帯人員が2人以下の世帯は増加しています。



(3) 人口増減の要因

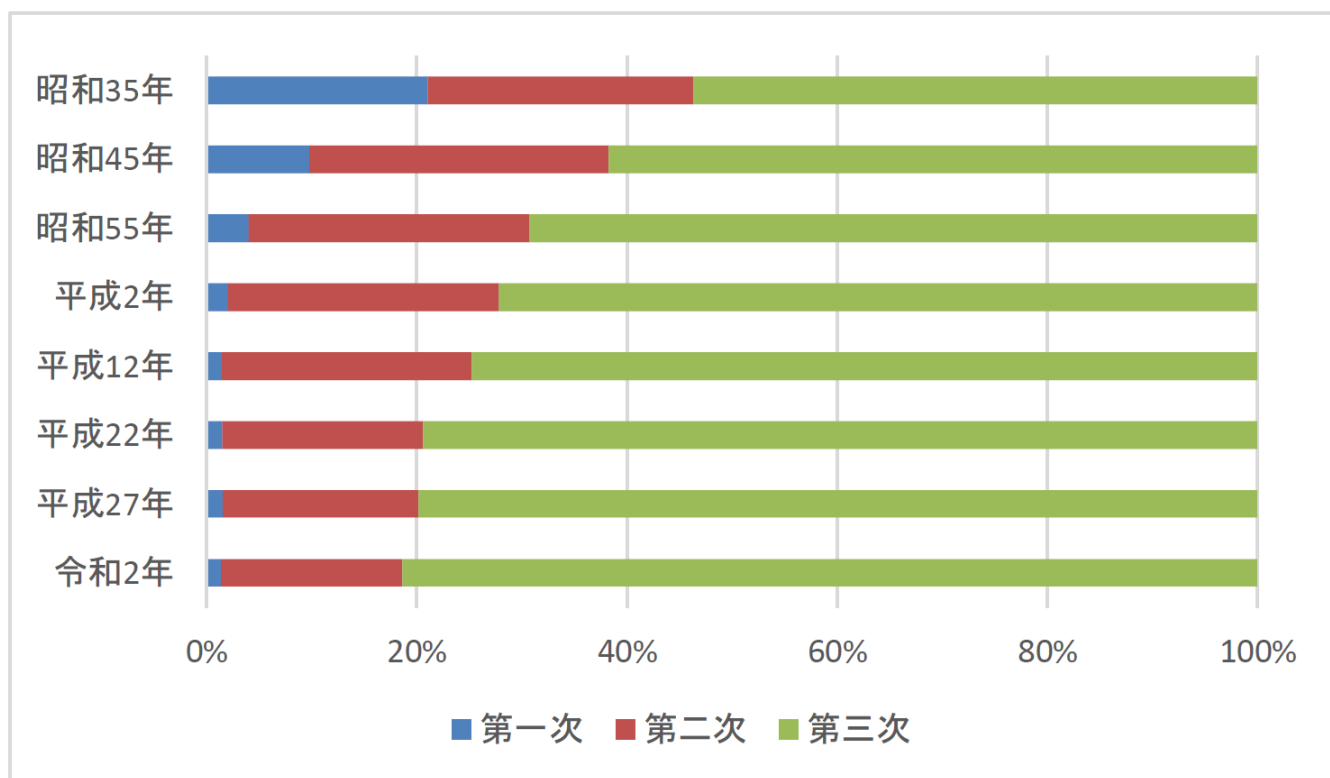
人口の増減には、自然的な要因と社会的な要因があります。自然的な要因は出生と死亡によるもので、社会的な要因は転入と転出によるものです。

$$\begin{array}{c}
 \boxed{\text{人口増減}} \\
 \\
 \boxed{\text{自然増減}} \\
 \parallel \\
 \text{出生} - \text{死亡}
 \end{array}
 =
 \begin{array}{c}
 \boxed{\text{社会増減}} \\
 \\
 \boxed{\text{社会増減}} \\
 \parallel \\
 \text{転入} - \text{転出}
 \end{array}
 +
 \begin{array}{c}
 \boxed{\text{社会増減}} \\
 \\
 \boxed{\text{社会増減}} \\
 \parallel \\
 \text{転入} - \text{転出}
 \end{array}$$

(4) 産業別就業者数の推移

本市における産業別就業者数は、近年の産業別動向をみると、第1次産業の就業者数が減少し、第3次産業の就業者数が大きく増加しています。

令和2年時点で、就業者数147,856人のうち第1次産業1,986人、第2次産業25,566人、第3次産業120,304人となっています。

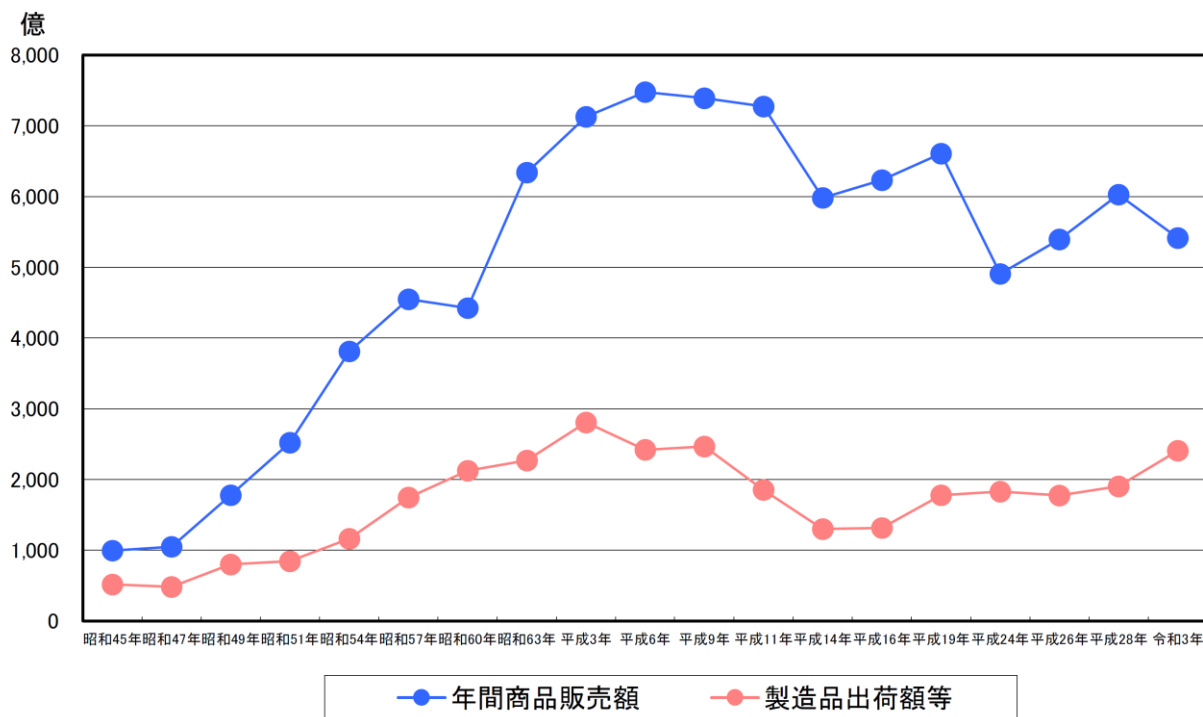


出典：国勢調査

(5) 製造品出荷額等及び年間商品販売額の推移

製造品出荷額等及び年間商品販売額をみると、昭和 47 年頃から急激な伸びが見られましたが、平成 6 年頃から減少に転じています。

令和 3 年時点で、製造品出荷額等は約 2,407 億円、年間商品販売額は 5,417 億円で、県内市町村別構成比は、それぞれ 14.0%、30.3%となっています。



出典：経済産業省「商業統計調査」

経済産業省「工業統計調査」

総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

1.1.8 奈良市の魅力を世界に伝える新たなスローガン「Old History, New Discovery.」

- ・奈良市は、アフターコロナや 2025 年大阪・関西万博を契機として、今後さらに国内外からの訪問客が見込まれる中、いかに奈良市の魅力を一面的ではなく「多角的」に見せる発信力を強化するか、その結果どれだけのリピーターを獲得できるか、また地元の皆様にも、もっと奈良市を知ってもらうにはどうしたら良いかという課題を解決するための一つのツールとして、英語スローガンを策定しました。
- ・また、スローガン「Old History, New Discovery.」と連動した奈良市独自のハッシュタグとして、「#oldnewnara」を設定し、海外の利用者も多い SNS ツールを通じて、奈良市の魅力を広め、長年の課題となっていた「情報発信力の弱さ」を解消したいと考えています。

**Old History,
New Discovery.**
NARA CITY

#oldnewnara

- ・このスローガンの意味は、端的に表現すると「温故知新」です。豊かな自然と古い歴史を持つ古都奈良の中には、キラリと輝く「New Discovery（新発見）」がたくさんあります。古いまちなみに息づく新たなスポット、若手伝統工芸作家による革新的な作品、古来の文様の中に見出した素晴らしいデザイン、いつのまにか海外でメジャーになっている奈良市の「何か」、あの仏像に秘められた知られざるエピソード、芸術品のような美食等、奈良市に来ていただく方々にも、このような「New」と「Old」のコントラストを楽しんでいただきながら、宝探しのように旅をしてほしい、そして何度も訪れてほしいと考えています。また、奈良市に住んでいる地元の方にも、生活する中で気づかなかった「New Discovery」に目を向けることで、新たな奈良市の魅力を再認識し、街への愛着をさらに高めるきっかけになってほしい、そのような思いを込めています。

1.1.9 将来を見据えた近年の本市の施策・取組

本市の将来を見据えた市内の主な施策・取組について、整理しました。

産業分野	・「産業のまち」及び「学生のまち」の推進 ✓ 学生、若者の活躍・就業促進 ➤ 学生・若者が魅力を感じる IT 等の成長産業の誘致 ➤ 大和西大寺駅前市有地における産地学官連携の拠点づくりの検討 ・人材・産業育成 ✓ 地域課題の解決を、事業として構想し実現することのできる人材の育成 ✓ 市内産業構造の転換の促進 ➤ 観光以外の産業の成長を促すべく、企業誘致、起業家支援等を実施 ✓ 企業誘致：新駅まちづくりを含めた新たな産業用地の創出/企業立地コンシェルジュによる誘致活動等 ✓ 起業家支援：創業支援施設等によるベンチャーエコシステム推進 ✓ 既存産業の高付加価値化
観光分野	・観光客一人当たりの観光消費額を増加させるような施策を検討 ・本市は、社寺の歴史的建造物だけではなく、歴史あるまちを形成し、古くから都として栄えてきた文化・歴史等が本市の固有の価値であると考えており、これを世界に情報発信（持続可能な観光）
環境分野	・「奈良市ゼロカーボン戦略」の推進 ✓ 民間宿泊施設等への太陽光発電設置 ✓ 公共施設への再生可能エネルギー導入 ✓ EV バス導入補助 ✓ 再生可能エネルギーを創出する新クリーンセンター（「地域エネルギーセンター（焼却施設）」及び「リサイクルセンター」）の整備 ✓ 廃棄物の処理によって生じたエネルギーを地域で循環させるまちづくりの推進
都市分野	・市内の主要駅を中心としたリノベーション・まちづくりの推進 ✓ 高の原駅前広場の再整備の推進とエリアマネジメント団体の設立検討等 ・鴻ノ池運動公園の再整備等 ✓ 旧奈良監獄の保存及び活用に係る公共施設等運営事業との連携 ・未活用の公有地の活用検討 ・ＪＲ新駅や京奈和自動車道（仮称）奈良ＩＣの整備による、交通結節機能の向上を生かしたまちづくり
東部ゾーン （東部地域） （月ヶ瀬地域） （都祁地域）	・東部ゾーンにおいて、「Local Coop（ローカルコープ）大和高原」プロジェクトを推進中。少子高齢化・人口減少社会の中であっても、地域住民による住民自治と住民共助によって、暮らしやすさ・well-being が持続的に向上しつつ、地域の経済・社会・文化・環境が維持、発展される社会基盤の構築 ✓ 令和４年３月１０日オープンの月ヶ瀬ワーケーションルーム「ONONO」をプロジェクト推進の中核拠点として活用